

**Citation:** Gupta JK, Hofmeyr GJ, Shehmar M. Position in the second stage of labour for women without epidural anaesthesia. Cochrane Database of Systematic Reviews 2012, Issue 5. Art. No.: CD002006. DOI: 10.1002/14651858.CD002006.pub3.

**CRG名:** Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 21 MAR 2012

Clib issue No.: N/U: 2012 Issue 5; U

## アブストラクト

**背景:** 何世紀もの間、上半身立位(座位、分娩椅子、椅子、しゃがみ姿勢(スクワット)、膝位)または臥位のどちらが、出産時の女性に有益か議論されてきた。

**目的:** 分娩第2期(子宮口全開大後)中の様々な姿勢の利益とリスクを評価すること。

**検索戦略:** Cochrane Pregnancy and Childbirth Group Trials Register(2012年2月28日)を検索した。

**選択基準:** 分娩第2期に妊婦がとる何らかの立位または側臥位を仰臥位または碎石位と比較しているランダム化比較試験(RCT)または準RCT。副次比較は、様々な立位と側臥位の比較とした。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが別々に組み入れについて試験を評価し試験の質を評価した。2名以上のレビューアがデータを抽出した。データの正確性についてチェックした。

**主な結果:** 選択した22件の試験(女性7,280名)の方法論的質は多様であったため、結果の解釈には注意を要する。

検証された全女性(初妊婦および経妊婦)では、立位群で第2期にかかる時間の短縮がみられなかった[平均差(MD) -3.71分、95%信頼区間(CI) -8.78~1.37分、10試験、3,485名、ランダム効果、 $I^2=94\%$ ]。また、器械分娩の有意な減少[リスク比(RR) 0.78、95%CI 0.68~0.90、19試験、6,024名、 $I^2=27\%$ ]、会陰切開の減少(平均RR 0.79、95%CI 0.70~0.90、12試験、4,541名、ランダム効果、 $I^2=7\%$ )、第2度会陰裂傷の増加(RR 1.35、95%CI 1.20~1.51、14試験、5,367名)の増加、500 mL超の出血の増加(RR 1.65、95%CI 1.32~2.60、13試験、5,158名、出版バイアスを示す非対称のファンネルプロット)、胎児心拍パターン異常の減少(RR 0.46、95%CI 0.22~0.93、2試験、617名)が示された。初産婦では、仰臥位に比べて立位の方が、分娩第2期の時間が有意に短縮しているわけではなかった(9試験、平均-5.47分、95%CI -12.55~1.60分)\*。この短縮は、birth cushionの使用に割り付けられた女性による寄与が大きかった。

\*アブストラクト原文(英語)では「9試験、平均3.24分、95%CI 1.53~4.95分」となっていますが、レビュー本文(英語)では、「9試験、平均-5.47分、95%CI -12.55~1.60分」となっています。ここでは、レビュー本文の数値を用いています。

**レビューアの結論:** 本レビューの所見から、硬膜外麻酔を受けていない女性での立位分娩によるいくつかの利益の可能性が示唆されたが、500mL超の出血リスクが増加する可能性も示された。様々な分娩体位の利益とリスクをより確実に推定でき、方法論的に厳格なデータが試験から得られるまで、出産時に女性が望む体位を選択できるようにすべきである。

## 硬膜外麻酔を受けない女性での分娩第2期における体位

女性は快適な体位で出産できるよう奨励されるべきであり、通常それらは立位であることが多い。

伝統的文化では、ひざをつく、立つ、しゃがむなどの立位で女性は自然に出産していた。西洋社会では、医師の指示により仰臥位で、時には支持台(足台)に足をのせさせて出産するようになった。本レビューでは22件の研究(女性7,280名対象)を選択した。本レビューでは、研究の質は良好ではなかったが、女性が仰臥位で出産した場合、鉗子分娩などの介助分娩となることが多く、会陰切開を要する率が高かったが出血は少なかったと示された。さらなる研究が必要である。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日:2012年9月27日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改訂版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。